

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人 東泉会 介護老人福祉施設 ひかわの里		
事業所名	グループホーム氷川		
所在地	熊本県八代市東陽町 762-7		
自己評価作成日	平成23年3月18日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4372900698&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成23年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境、整備された苑庭、広々とした菜園の中、四季を感じながら、ゆったりと生活ができる。職員は、お一人お一人の思いを大切に手を出しすぎに注意し寄り添い、耳を傾け入所者中心の生活を心がけている。医療面においても、地域の医療機関との連携を築きながら支援している。急変時対応も母体法人の協力があり適切な対応が出来る。また年間行事を通じて、地域の方々とも交流が盛んである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清流と桜に囲まれた自然いっぱいの環境のなか、「やさしさ」と「ゆったりと楽しく」「喜びと自信」とを理念に掲げ、利用者1人ひとりのサービス計画実行表で、1日の流れを把握し、生活記録に記載される等、ケアの実践に基づいた記録がきちんとみられた。また、業務優先にならないよう、ゆっくり待つケア、入居者の意向に沿ったケアが心がけられている。特に排泄には言葉かけ誘導、清拭、ポータブルの取り扱い等に、気負わない自然な支援が感じられた。運営推進会議も徐々に充実してきており、地域密着型としてのホームの役割が今後更に期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時で斉唱、又事務所内、玄関に大きく掲示し、日々の暮らしの中で理念を念頭に置いたケアの実践につなげている。	「個性の尊重とやさしさ・地域の中でゆったりと楽しく・暮らしに喜びと自信を」と理念に掲げ、役割を固定せず出来そうなことを促すことで利用者の自信となり、笑顔を呼び、理念に沿ったケアとなっている。地域行事にも積極的に参加し理念の具現化に努めている事が伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	法人施設全体が地域と連携が取れているため地域の行事への参加を声掛けしてもらったり、保育園、小、中学校との交流も根付いている。	婦人会の草取り協力があり、老人会との交流、保育園児、小・中学生の訪問を受けるなど、地域との交流を大切にしている。夏休みには学童保育の児童を受け入れ、子ども達が作ったゲームに車いすの入居者が参加し、笑顔が広がった。子どもとの交流は、高齢者に元気とパワーをもたらし、今後も続けて欲しいと利用者からの意向も聞かれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅介護支援事業所で、家族介護者教室に協力したり、地元の、小、中学校の、ワークキャンプ、職場体験の受け入れを法人として行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動内容の報告や日頃の状況などを説明するようにしている。和やかな雰囲気の中活発な意見交換が出来ている。また、入所者の生活歴など聞くことが出来コミュニケーション作りに生かしている。	行政、民生委員、家族など毎回10人程度の参加を得て開催され、外部評価を含めた報告の他、反省点を出したうえで具体的な課題の協議の場ともなっている。運営推進員の拡大も協議され、消防団への声かけを検討するなど、会議を運営に活かして、更なる質の向上を目指している。	推進会議の名称では堅い印象があるという意見には、会議をもっと身近にするため「ホーム寄り合い会」等の名称変更も一案かと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	文章、代行申請手続きなど直接届け、相談、質問など対応協力を得ている。行政の方には、行事や会議に参加頂いている。	市町村担当者へ運営推進会議や行事への参加を依頼し、ホームの理解を得る努力が行われている。また、行政との連携を更に充実するために、多くの情報をホーム側から発信し、詳細な行政情報も積極的に求める姿勢に期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設で合同設置をしている身体拘束廃止委員会で話し合いマニュアルを定め勉強会を行っている。玄関の施錠は行わず、外に出られるときは本人の気の済むまで一緒に散歩している。	法人で実施される「身体拘束研修会」に参加し、どんなことが拘束になるかを意識し、待つケアを実践している。車いす自走者はゆっくり見守り、深いクッションのソファ等の立ち上がり困難の解消のため、マットに独自の工夫を加えるなど考慮中。転倒防止に夜間の柵設置や布団に鈴を取りつけたり、持病のある人には見守りを強化し、センサーですぐ駆けつけ、事故の未然防止の工夫が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	熊本県での虐待が原因で事業指定取り消しがあつた事を踏まえ、講演会に参加、介護現場の甘さがある。法令遵守が必要であることを職員に周知するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修に受講し、理解に努めているが、今のところ該当者はなく、職員の理解は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分に説明し、不安や疑問点は時間をかけ、説明し同意を得るようにしている。面会時に疑問点あればその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の状態、様子を観察し、個室にて困り事、意見など聞き職員で話し合っている。ご家族様には面会、行事、電話などで健康状態、日頃の様子を報告をし、色々な意見を伺っている	法人全体で家族会が作られており、総会や面会、行事の際に意見や希望を聴くように心がけられている。運営推進会議へ全家族の参加を呼び掛け、ホームと家族が対等の立場で、本人にとって一番望ましい暮らしのあり方を率直に語り合う場としての活用を考慮中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設の全体会、スタッフ会議等で意見、提案を聞き又個別でも意見を聞き、必要に応じて反映させている。	ミーティングやスタッフ会議で意見を出し合っている。毎朝、夜勤者から気付きを申し送りして引き継ぎ、小さなことでも意見を出し合い、入所者の状況変化への対応共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の個々の勤務条件を考慮した勤務形態である。また、内容に応じて研修会参加や各資格取得に向け、学習勸奨を行っている 行事後、反省会として食事会を行い、スタッフの団結をより一層なものにしている。		
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代GH部会研修、事例検討会など参加し交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネ、家族より情報収集、本人から思いや心身の状態を把握し、現入所者との顔なじみの関係作り、本人が安心されるような雰囲気作りに努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解し、ご家族との会話を多く持つ機会を作り信頼関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の担当ケアマネ、主治医からの情報とその緊急性について把握すると共にご家族様と本人との意向も取り入れ他のサービス機関の情報も提供しながら適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いを聞き、人生の先輩として教えを頂き、喜怒哀楽を共に生活している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時折、家族からも電話を頂きご本人の様子や状態を報告している。定期のお薬届け、散髪来苑、病院受診など家族にもできるだけ関わって頂き、共にご本人を支えて頂くような関係作りができています。また、状態報告を日頃の様子を添えて家族へ年2回「GH通信」を渡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事(敬老会、文化祭等)、お寺参り、運動会、苑のグランドゴルフにも参加されなじみの方との交流の場を設けている。	ドライブで古里訪問を行い、馴染みの人との会話を楽しんだり、庭の果物の収穫や姉妹の家へ立ち寄り等、入居者の思いを大切に交流支援がみられた。また、門徒であるお寺詣りや地区の老人会の訪問受け入れ等、馴染みの関係を大切にされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションなどを通して相互に支え合う環境を作るように努めている。相性の良い利用者同士を隣の席に配置、お互いに思いやりのある言葉が聞かれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設での情報を移転先の関係者に詳しく報告している。契約終了後も関わりができることを説明し、今年は併設の特養に入所されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に担当ケアマネジャーから情報収集、入所時にはご家族、本人からも情報を集め、日々の会話の中で本人の思い、訴えなどできるだけ気持ちに添うよう努め、本人にとって最良の暮らしができるように努めている。	一人ひとりに目を向け、会話や動作によって思いを汲み取るよう努力が行われている。自力でトイレに行きたいという意向を把握した介助への対応が重視されており、外出困難な入居者も車いすのまま外出し、車窓から風景を楽しむなど、「出来ない」と決めつけず、暮らしの中でのつづやきや会話の中の言葉から、想いを拾い出して一つづつ実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に担当ケアマネジャーからの情報収集と、日々、入所者と過ごす中でお話を伺ったり、面会時に家族から伺い把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りなどで利用者の状態を確認する。日課の中でその日の体調について変化を見逃さないように目配りし、健康チェック、ケア日誌、サービス計画実行表に記入する事で、一日の過ごし方や全身状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の会話や暮らしぶり、家族とは面会時に話しを聞き介護職員と会議し計画作成している。	管理者・家族・ケアマネが参加し、月1回のスタッフ会議でモニタリングを実施。会話の中から思いを汲み取り、面会の際に家族と意見交換して本人を中心に考えた計画が作成され、家族の同意を得ている。入所時の介護計画よりも穏やかな状況になり、何かやりたいと申し出る入居者がある等、状態が良くなっており、ケアの質の向上を心がけている職員の励みになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の色々な記録を職員で共有し、さらに気付いたことなどお互いに意見交換しあいプラン修正に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設であり殆どの多機能サービスを提供している、ホームとしても協力体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、買い物を希望される入所者に対して個別外出を計画したり、また今年はショッピングセンターに出かけ買い物、昼ごはんも自分で選んで食べていただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族と本人の意向を聞き、安心できるようなかかりつけ医との関係作りに努めている。また緊急時にも相談できるよう連携をとっている	年2回の定期検診が実施されており、受診についてはかかりつけ医受診をしているが、殆どが2週に1度の往診で受診。法人協力医の主治医は24時間体制で対応可能で、体調変化時には電話確認があり安心。夜間緊急時は法人の宿直者との連携があり、単独の対応の不安が解消されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のサービス実行表で気づき、変化を見逃さず看護師に相談、必要有ればかかりつけ医療機関の主治医、看護スタッフ等との連携を図り、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関へ情報提供、情報交換に努めている。退院時にも家族、病院とで、話し合い退院後の生活支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、医療機関、家族の三者でホームの限界を示して話し合い、対応を取り決め書面を取り交わすようにしている	重度化や終末期の対応については、施設入所・病院への入院・自宅へ帰宅とその対応を選択することとしている。また、「事前指定書」及び「看取り介護同意書」を作成し、家族へ説明を行い、運営推進会議でも取り上げ周知を図っているが、看取りについての実践例はない。	介護度の高い入居者も居り、早い段階で看取りに関する職員研修(家族の精神的ケアも含めた)と家族への理解を得る為の勉強会が必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルをいつでも見える場所に貼り、全職員が確認するようにしている。また、併設施設と合同で救命救急講習を年一回、看護師を講師として勉強会を二ヶ月に一回行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回 独自の避難訓練を行っている。緊急連絡網を作成し災害時、非番職員も避難訓練に当たるように取り決めている。また、台風、水害が予測される場合当番制にて、夜間泊まり込みを決めている	スプリンクラー、自動火災報知機等の設備がある。法人と合同の訓練と、ホーム単独での避難訓練と年間2回実施し、結果を運営推進会議に報告している。介護度の高い入所者の対応は難しい面もあり、消防署との綿密な打ち合わせや本番想定の実践的な取り組みが望まれるが、職員の身内に消防署員が居り、協力体制にも積極的に心強い対応となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃、職員間でもチェックし、配慮に欠けるような対応にはその都度注意をしている。尊厳を大事にするケアを心がけている。	理念に「尊重とやさしさ」を掲げてあり、トイレ誘導や入室の際の声かけには、理念を踏まえたやさしい対応を心がけている。ただ親しさゆえの慣れ合いになる場面もあり、お互いに注意し合っている。「プライバシーの留意点」としてスタッフ会議にかけ、改めてプライバシー保護の重要性について意識の統一が図られていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の分かる表現方法での仕草や表情での読み取り、本人の思いを大事にしているが動きたくない希望が多く筋力低下防止のため、再度の声かけ行い無理強いしているところもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課を基本に、その日の体調や気分を見極め、その人に沿った個別ケアを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひかわの里内での美容院での散髪であり、本人希望の店ではないが、ヘアースタイルは希望通りになっている。外出前日は必ず入浴施行し、衣類も選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材は別メニューで対応、おいしそうな匂いの中で食べる楽しみを想像し日常生活の中で一人ひとりのできることを把握し、できる範囲でのお手伝いをお願いしている、	法人の管理栄養士の献立に基づいて契約の店から毎日厳選された食材が届けられる。メニューの変更も可能で、リクエストによる献立や職員が自宅で手づくりしてきた煮豆や饅頭も好評。また、毎月1日は刺身の日と決められ、週1回は法人で開かれる「居酒屋」での買い食い等が大変喜ばれている。必要に応じ「きざみやとろみ食」、御飯だけになってしまった入居者にはそと「ふりかけ」を掛ける等、心づかいも見られた。食後はテーブルにふきんが置かれ、自然にテーブル拭きをするなど、家庭的な食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調、運動量、生活歴で食事量、形態を決め、希望を聞きながら提供している。また併設の管理栄養士の作成した献立を基に季節の食材や入所者の好みに応じてアレンジし、バランスのとれた食事が確保できている。摂取量もチェック表にて把握し、定期的に体重測定をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄は習慣になっている。義歯の洗浄も定期的に行っている。 7/9		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しチェック表を確認しながらさりげなく声かけしている。また本人の行動、言動をサインとして速やかに失敗なくトイレにて排泄できるように支援している。、	排泄状況によってオムツ、リハパン、ポータブル等の使い分けがあり、自立排泄が不安な入居者には就寝前にポータブルを設置している。また巡視中に覚醒しておられれば声かけし誘導する支援となっている。翌朝ポータブルは部屋から出し保管場所へ移し、日中は部屋に置かない対応となっている。また、失禁時の清拭用のタオルとして、古くなった炊飯ジャーで温められ、風呂場に常備しており、気持ち良い清拭となるように配慮されていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認し、散歩、水分補給を声かけ 又、本人に合わせて牛乳、ココア、ヨーグルトを勧め 無理なく排便できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を確認、希望を聞き実施している。入浴嫌いな方には穏やかな気持ちになれるまで待つ、職員が交代する等工夫しながら行っている。季節行事にはユズ湯、晩白柚湯、菖蒲湯等で楽しめるように支援している。	希望者は毎日入浴可能。数名の人が毎日入浴で、殆どの人が週3回程度の入浴となっている。拒否の人には、職員が交代して声かけしたり、体重測定にしたりと工夫しながら、その気になられるまで待ち、無理強いをしない支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を高め昼夜逆転を防止、本人の生活習慣、現症状に合わせた環境整備を心がけ、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況は全職員が「薬説明書」にて確認。 副作用、体調変化に十分注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴などから見て好みを把握し掃除、片づけ、、畑の野菜手入れ等、個々の役割として発揮し職員にも教えて頂いている。併設施設で行われる行事にも参加し楽しみの持てる生活ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や買い物は状態や希望に添ってなるべく出かけるようにしている。遠くが苦手な方は、近くで開催される地域での行事に参加されている。今年はショッピングセンターに出かけ買い物、昼食も自分で好きなものを選んで食べて頂いた。また家族の協力を得られ故郷訪問、お寺参りも実行出来た。	介護度が高い人が増え、遠出の機会が少なくなったが、車いす対応車でのドライブ等が実施されている。また、法人の広い敷地内で、季節毎の花見や散歩、鯉の餌やり、芝生での外気浴等、体調や気分を考慮して希望を受け入れ、外出の機会が多くなるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を所持していないと不安を訴える方2名と1名の方は自ら買い物をしたり買い物を職員に頼まれたりと自分で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を頂き、本人の意向を受け止め電話の援助は行っている。手紙のやり取りはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と一体の居間にて苑庭の風景を見ながら、季節感を味わい、時には季節の花を飾ったり、すぐ側では野菜の切る音、美味しい匂いで会話の中で心地良く過ごされている。	玄関、洗面所、トイレ等に季節の花を欠かさず、入居者との話題づくりにもなっている。もみじ棟の居間の畳部屋には大きな仏壇があり、毎朝一番茶をあげるのを日課としている入居者もあり、安らぎの場となっている。また、両棟共台所が居間に続いており、調理の音や匂いに直接触れられ、家庭的で落ち着いた雰囲気、入居者のゆったりとくつろぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下で自由に過ごせるようにソファを設置、各居室に気の合う利用者同士で過ごせるようにイスを置いたりとゆっくり過ごす時間を確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊を希望される家族は、今のところないが、居室にソファベッドを設置したり、別ユニットの空き室を利用することもできる。なじみの物も少しずつもちこまれている。	両棟で部屋の造りや広さが違うが、鏡台や整理ダンス、おしゃれな電気スタンドや本棚等があり、壁には写真や色紙、入居者自身が作製したという大きなパズル絵が掛けられる等、その人の好みや生活歴によって、心地よく過ごせるような部屋への配慮が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の表札、トイレ表示、廊下は全周手すり設置。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人 東泉会 介護老人福祉施設 ひかわの里		
事業所名	グループホーム氷川 (りんご)		
所在地	熊本県八代市東陽町 762-7		
自己評価作成日	H23年 3月18日	評価結果市町村受理日	H23年 5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境、整備された苑庭、広々とした菜園の中、四季を感じながら、ゆったりと生活ができる。職員は、お一人お一人の思いを大切に手を出しすぎに注意し寄り添い、耳を傾け入所者中心の生活を心がけている。医療面においても、地域の医療機関との連携を築きながら支援している。急変時対応も母体法人の協力があり適切な対応が来ている。また年間行事を通じて、地域の方々とも交流が盛んである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4372900698&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成23年3月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、定例会議などで、取り上げ、理解、共有するようにしている。年間の行事や、外出先で地域の方々と交流ができている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人施設全体が地域と連携が取れているため地域の行事への参加を声掛けしてもらったり、保育園、小・中学校との交流も根付いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅介護支援事業所出、介護教室に協力したり、地元の小、中学校のワークキャンプ、職場体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、活動内容の報告や日ごろの状況など説明をするようにしている。和やかな雰囲気の中活発な意見交換ができている。また、入所者の生活暦など聞くことができ、コミュニケーション作りに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	文章、申請手続き等、直接届け意見交換の機会を心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設合同での委員会を設置し、職員に理解してもらっている。玄関の施錠はいつもしておらず、ベッド柵なども本人の意思を尊重するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	熊本県での虐待が原因で事業指定取り消しがあつた事を踏まえ講演会に参加、介護現場の甘さがある、法令遵守が必要である事を職員に周知するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修に受講し理解に努めているが、今のところ該当者は無く、職員の理解は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し疑問点や不安な部分は面会時などに会話をしながらさりげなく尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、各種行事のほか面会時には意見を尋ねなんでも話せる雰囲気を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や併設施設との全体会議などで、提案や意見を聞き必要に応じて反映させている。また、毎日のミーティングの中で意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休に応じた勤務体制である。各種研修参加への奨励。併設の他職種との交流がとれる。勤務評価による賞与支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の勉強会、八代部会の勉強会、また外部の研修会など参加している。内容を全職員で共有するため研修発表をするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代GH部会に於いて、定期的に勉強会や交流会などには参加し、他施設の事例も聞くことが出来参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅介護支援事業所との担当者と連絡をとりながら困り事や要望などを聞き家族と一緒にホームを見学して頂き利用者の様子理念などを理解して頂き、心身の状況や想いを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでの生活について理解が得られるまで説明を行いご家族の不安なこと要望など職員の方から声掛けするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当ケアマネからの情報の収集をし、本人様が安心して生活されるよう必要なときにさりげなく関わりをもてるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りにおいても準備、配膳、下膳を一緒に行う工夫、献立調理方法も話し合うようにしている。また、参加できない方に対しても近くで寄り添い会話するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間の行事には、家族参加を呼びかけ交流を図っている。面会の少ない入所者に対しては、外出も兼ねて自宅への訪問もするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設との合同行事には、できるだけ参加し、なじみの方との関係が継続できるように努めている。地域の老人会の方の訪問も時折あり喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日を通して目配り、気配りしながら入所者同士が関わり支えあえる場所作りや話題の提供をして支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活の場所でもこれまでの暮らしの様子、留意点について情報提供し、将来への不安を伺い相談や支援ができることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が一人ひとりに目を向け日頃の生活会話の中やさりげない話題の提供で希望や意向を聞き出すように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	差し支えない範囲で家族、親戚、知人から協力を得て、本人様との話をあわせて情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックでの声掛けで、心身の変化を見逃さないように努めている。 また、一日の生活、暮らしぶりをチェックするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のさりげない会話から、本人の思いを引き出したり、面会時に家族と話しあいの場面を作り、意見交換をするようにして、現状に合った計画を作成している。モニタリングは必要に応じてしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については、変化を中心に記録し、スタッフは朝の申し送りで伝え、他時間帯の勤務者は必ず目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設との連携で本人の希望や意向に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、買い物を好まれる入所者に対して、個別外出を計画し、地域の物産館などへ出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時本人家族の意向を確認し、疾患に応じて専門の医療へ受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で、変化があった場合は、看護師に伝え相談し利用者が適切な受信や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関へは積極的に情報を提供し、情報交換に努めている。退院時にも家族と医療関係者と話し合い退院後の生活支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中、状態変化の際は、随時家族へ連絡・説明し、ホームでできることを十分に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼して、全職員が受講できるよう、数回に分けて救急救命講習が行われている。また、併設施設との勉強会が年6回行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の避難訓練を行っている。緊急連絡網を整備し、いざというときは、非番の職員も出勤、避難誘導などの当たるよう取り決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を忘れず、一人ひとりに応じた声掛けをするよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、返事で終わらないような声掛けを心掛けたり、物事を先取りしないでじっくり耳を傾けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にすることも時折見られる。その際、気づいた時点で話し合い、状況把握するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は、自分でしてもらい、そうでない方も洋服など選んでもらうように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何を食べたいですか？」の声掛けで、好みがあれば、できるだけ取り入れるようにしている。準備・盛り付けに於いては遠慮されていたが一緒にすることで自分の役割として参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士が立てた献立を元に季節の食材や菜園でとれた野菜でアレンジしている。摂取量は個人の記録に記入している。水分は起床時、おやつ時、就寝前と毎食の食事以外でも摂るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、酸化水を使用してうがいをしてもらい、自分で出来ない方には声掛け介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などでパターンを把握検討してさりげない声掛け誘導、介助をしている。できるだけ、トイレでの排泄を心がけ夜間帯の体動時にはトイレ誘導をするようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時に食物繊維を取り入れたり、起床後、冷たい牛乳やきなこ牛乳を飲んでもらっている。また、全員での体操のほか、車椅子の方には、起立運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴はできるようにして希望に応じている。平均として週3～4回の入浴になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を心がけ、昼夜逆転にならないよう支援、居室は季節に応じて冷暖房、希望に応じて電気毛布を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、必ず目を通すようにしている。新しく処方されたときは、申し送りノードに記入し、疑問があれば看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り(配膳、下膳、おしぼりたたみ)を役割として発揮されている。数人の方のトランプは日課となって楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたい方には、希望を尋ねてでかけるようにしている。個人外出の際、墓参りをすることが出来喜ばれていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、2~3人ではあるが、管理して頂いて居る。他の方においても、買い物時使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて、いつでも利用して頂いている手紙のやり取りは随時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の草花、畑には野菜を植え、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチ、椅子を設置し、必要に応じて、利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で宿泊を希望される家族に対して、ソファベッドを設置し、ゆっくりと過ごされるようにしている。使い慣れた物の持ち込みは、少しずつあり、日々の暮らしに取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリアフリー、廊下には手すり、居室入口に名札、トイレ表示も目の高さに合わせて設置している。手すりを利用して、屈伸、立位訓練をして頂いている。		